

伝統芸能

はな 花鼓 つづみ

私は、師匠の家に住み込み修業をするという内弟子(家政婦さん)が洗濯してシステムを経験した最後の世代である。昭和四十二年(家政婦さん)という明るく二十歳の初夏に入門し、三世竹本春子大夫師宅に二年、四世竹本越路大夫師宅に四年、お世話になった。春子大夫師宅では、師ご夫妻と家政婦さんと私の四人生活。「雄ちゃん(私の名)、パンツだけは自分で洗いや。あとはおぼちゃん(家政婦さん)が洗濯してくれるから」という明るく甲高い奥さんの声が、内弟子生活の始まりだった。数寄屋造りの邸宅で浴衣を着せてもらい角帯を結び、初めて「酒屋サワリ」を稽古していただいた時の感動は、今でも忘れられない。師匠が弾く太神三味線のベンの響きと野太い義太夫声にただただ圧倒された。

文楽太夫 豊竹英大夫



住み込み修業は貴重な経験

春子大夫師が舞台中に起こした心筋梗塞で亡くなった後、越路大夫師に入門。当時独身だった師匠とある時期、二人の生活をした。かつお節を削り毎日味噌汁を作ったが、味噌は赤と白を合わせ、具は月曜は玉ネギ、火曜じゃが芋、水曜白ネギと日替わり。最後の味見は師匠がするのだが、この味噌汁が実にうまかった。

しかし、プライベートな時間が少ない生活を延べ三年ほど続けるうちに、深い焦燥感に襲われた。このままやっていけるのか？「やめたい」から「やめよう」に移ろい始めたころ、新たに内弟子に入ってきたのが去年じくなった竹本貴大夫君。寡黙で不言実行型の彼との出会いは、私の太夫人生の大きな礎となった。